

# みゅーじあむ・船橋

令和4年9月



## 第19号

博物館ニュース	[2]
くらしの道具紹介 ～ちょっと昔の夏の夜～	[3]
船橋の明治・大正・昭和 船橋町に住んでいた日本画家の日常	[4-5]
船橋の遺跡を知ろう！ 古墳時代の住まい	[6-7]
インフォメーション	[8]

# 博物館ニュース

## 郷土資料館 開館50周年を迎えて

昭和40年代の船橋市では、市内各地の遺跡から数多くの土器などの遺物が出土したことや、急速に進む現代化により昔の生活道具が失われつつあったことから、それらを収集・保存し、研究するための施設が求められていました。

昭和47年(1972)6月10日、郷土資料館は船橋市初の博物館として開館しました。そして令和4年(2022)6月に、開館50周年を迎えました。

郷土資料館は開館以来、半世紀にわたって市内の民俗資料や歴史資料の収集・保管に努め、調査した内容を展示してきました。この間に収集・収蔵した資料は総計で約8万8千件(令和2年3月末時点)にのぼります。また、平成30年(2018)には、建物の耐震工事とエレベーター設置工事と併せて、より明るく、見やすい展示室へとリニューアルしました。

当館では開館50周年にあたり、令和4年7月16日から「船橋を知るための50の扉」という、様々な「扉」から船橋市を知ってもらえるような企画展を開催しました。

船橋市の歴史や市民の方々の思い出を記録し、未来に引き継ぐ役割を担う場所として、これからも郷土資料館をよろしくお願ひします。



## 飛ノ台史跡公園博物館

### 企画展 第21回縄文コンテンポラリー展 in ふなばし〜とびはくへのトビラ〜

飛ノ台史跡公園博物館では、7月21日から8月28日まで、「第21回縄文コンテンポラリー展 in ふなばし〜とびはくへのトビラ〜」が開催されました。

当館に所蔵されている縄文土器や土偶といった遺物から受けたインスピレーションを基にアーティストが作製した作品を、その遺物と並べて展示しました。本年度は10組のアーティストが参加しました。平面や立体など様々な形で表現した作品に、館内はいつもの博物館とは、違った雰囲気となりました。

会期中には、参加アーティストによる、土ねんどや樹脂



西村 FELIZ 「進化の過程」



ワークショップ

「カラフルなオリジナル土偶を作ろう！」

ねんどを使った土偶づくり、バラバラになった土器の復元などのワークショップが行われました。8月13日の「カラフルなオリジナル土偶を作ろう！」では、樹脂ねんどを使用しての土偶を作りました。参加者のみなさんは、色の組み合わせや形を工夫しながら、オリジナルのカラフルで楽しい土偶を完成させていました。

会期中には、1,877人の来場者がありました。この夏、たくさんの方がコンテンポラリー展という「トビラ」を開けて、縄文時代との新たな出会いを楽しんでくださったのではないのでしょうか。

# くらしの道具紹介

## ～ちょっと昔の夏の夜～

現代の日本の夏は年々暑さが増しております。気象庁の統計によると、東京都の8月の平均気温は昭和25年(1950)から令和2年(2020)で、約3度上昇していることが分かります。

また、最低気温25度以上の日数も3日(昭和25年)から19日(令和2年)と大幅に増えていることから、当時は現代と比較すると過ごしやすかったと言えます。

しかし、現代のような冷房設備が無く、また隙間の多い住宅での生活は、今とは別の意味で寝苦しい夜でした。

ここでは、実際に使われていた道具と共に、ちょっと昔の夏の夜を紹介します。

### ◆ 蚊取線香・蚊遣り豚(かとりせんこう・かやりぶた)



古来より日本では、「蚊」は夏の安眠を妨げるだけでなく、マラリアや脳炎等の伝染病を媒介する厄介な存在でした。そのため、「蚊遣り」と呼ばれる煙を立てていぶす道具を使用して蚊を追い払っていました。

明治時代に、海外から取り寄せた除虫菊の栽培が始まり、明治23年(1890)に日本の企業が防虫剤として、防虫菊を練りこんだ蚊取線香を開発しました。

蚊取線香とは、燃烧時に発する煙や香料に加え、線香内の殺虫成分が高温で揮発し、拡散することで蚊を追い払うというものです。

蚊取線香は燃烧物のため、設置台兼灰置きとしての「蚊遣り器」が必要となります。代表的なものが写真の「蚊遣り豚」です。見た目のユーモラスさから、夏の風物詩としてイメージされる方も多いでしょう。

豚の形状の由来は、古来より使用されていた徳利状の蚊遣りが原型である、養豚場の蚊よけ器からヒントを得た、など諸説あります。起源も定かではありませんが、大正時代に全国的に普及したとされています。

蚊取線香は日本の夕涼みに欠かせない存在でしたが、

火災のリスク、線香の煙による健康被害の可能性などの理由から徐々に消費量が減少しており、現在は電気蚊取やスプレータイプの虫よけが主流となりました。

それに伴い、蚊遣り豚も家庭から姿を消しますが、現在でも名残として、一部の電気蚊取のデザインに豚の意匠が用いられています。

### ◆ 蚊帳(かや、かちょう)



蚊帳とは、夜に蚊を避けるため、部屋の上部から吊り下げて寝床を覆う方形の帷(とばり)です。日本では奈良時代から貴族の住まいで使われており、江戸時代から徐々に一般庶民に普及しました。材質は主に麻で作られており、明治時代以降に化学繊維に移り変わります。

写真の蚊帳は俗に「萌黄蚊帳」と呼ばれており、鮮やかな色合いから江戸時代に流行した柄と言われています。

日本の夏は高温多湿であることから、とりわけ夜は寝苦しさ解消するために、窓や戸を開けて風通しを良くする必要がありました。その際、屋内に侵入する蚊をはじめとした虫を防ぐ意味で、蚊帳は夏の必需品でした。

昭和30年代後半から網戸が普及し始め、住宅の密閉率が上がったこと、部屋の構造が和室から洋室に変化したことなど複合的な理由から、蚊帳は一般家庭から徐々に姿を消します。現在では、アウトドア用品として使用されるほか、蚊が媒介する伝染病が発生しやすい国や地域で多く使用されています。

なお、過去の企画展で実験的に蚊帳を吊り、来場者の方々に中に入る体験をしてもらったところ、「このまま過ごしたい」と話す小学生もいたほど好評をいただきました。

蚊帳の中での居心地は、今も昔も変わらないようです。

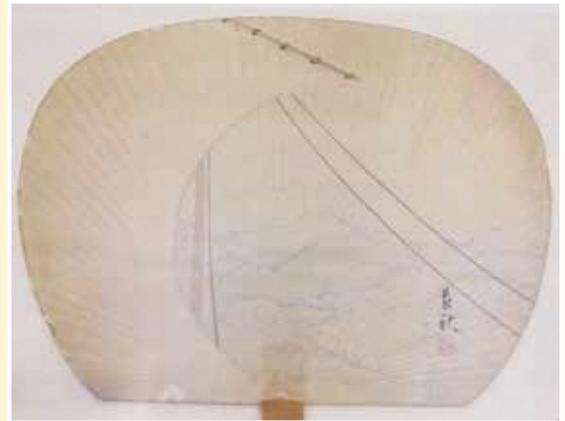
参考資料：気象庁ホームページ

(<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

工藤員功(編)、岩井宏實(監修)

『絵引 民具の事典』(河出書房新社、2008年)

## 船橋町に住んでいた日本画家の日常 — 昭和8年(1933)「磯田長秋日記」 —



『キング 新年号 附録』(昭和8年)を展示しています。

上の写真は、令和4年9月1日に、郷土資料館開館50周年記念企画展「船橋を知るための50の扉」の展示資料の一部を撮影したものです。この展示ケースでは、「船橋ゆかりの画家」として、磯田長秋(1880～1947)のことを紹介しています。

船橋市では、磯田長秋に関する調査・研究を、文化課の美術担当学芸員が中心になって進めています。令和4年度からは、郷土資料館の学芸員である筆者も、長秋が書いた日記などの資料を解説し、地域史研究に役立てようとしています。

### 1. 歴史画

長秋は、小堀鞆音(1864～1931)に師事し、明治31年(1898)頃、同門の安田鞆彦(1884～1978)たちと紫紅会(後の紅児会)を結成し、日本画の研さんを積みました。そして、紅児会解散後の大正11年(1922)、船橋町(現在の本町)に転居しました。

長秋の代表作の一つが、昭和3年(1928)に明治神宮の聖徳記念絵画館に納めた壁画《地方官会議臨御》です。長秋は、歴史画の第一人者として著名だったため、雑誌の表紙や挿絵に歴史上の人物を描いてほしいという依頼を多く寄せられました。郷土資料館の企画展でも、展示ケースの左側で、『講談

### 2. 革丙会

長秋は、船橋町に転居した後も、頻りに東京に出かけています。筆者が現在解説を進めている昭和8年の日記に見られる東京での用件の一つが、小堀鞆音の門下生が集う「革丙会」の会合への出席です。

#### 昭和8年2月11日

床ヤニ至リ十一時過ギ帰ル、仕度ヲシ、革丙会頒布会工至ル、上野工着一時二十分過、執筆ノ諸君皆大努力作ニテ、来会者満足ニ見学

#### 昭和8年3月26日

革丙会出品ノ寸法ヲ種々考工、三尺巾豎二尺ト定ム(中略)革展出品ノ画題兼而ノ予定ナリシ信長清洲出陣ヲ最初ニ附テ見タガ、如何ントモ面白カラズ、日本精英ヲ読、北畠親房ヲ肖像風ニカイト見ント、是又種々苦心ヲシタガ、トウニモ纏ラズ、夕刻近クナリテ漸ク義経ト鬼一法眼ノ女ヲカク気ニナリ、草稿ニカヽル、晚餐後草稿ニカヽリ、十二時廿分漸クニ草稿出来、画室ヲ仕舞

2月11日は、入江子爵に招待された晩餐会に、棚田暁山・山川永雅・川崎小虎らとともに出席し、食後に「国風画会展ノ相談」をしたそうです。また、3月26日の記述からは、画題を考えるために書籍

(『日本精英』)を読んだり、深夜まで作業をして草稿を仕上げ、画室を退出したりという、作品ができるまでの過程がよくわかります。

### 3. 「雛」という画題

長秋は、画題や素材などの依頼を受けた作品を手掛けることも多かったようです。

#### 昭和8年2月1日

九寸巾四尺ノ紙本工雛ヲ五枚、尺八巾縦尺六寸位工**楠公**(※楠木正成のこと) **桜井駅**、**富久紗**(※ふくさ)ノ**下絵**二枚等ノ依頼ヲ受ク、但シ雛ト富久紗ノ下絵八来ル七日頃迄ニトノ事引受ル

後略の部分を読むと、この日、「尺五巾雛」の依頼も受けたことがわかります。右の写真は、船橋町の医家清川家が所蔵していた長秋が描いた《紙雛》です(現在は船橋市所蔵)。昭和8年の日記のうち2月は、依頼される作品の画題に、《紙雛》が目立ちます。また、清川家旧蔵(現船橋市所蔵)の長秋作品である《高砂》は、夫婦愛や長寿を寿ぐ画題で、昭和8年の日記にも「高砂」の依頼を確認できます。

節句やお祝い事の時に作品の依頼を受けるのは、画家の中でも、歴史画を得意とした磯田長秋ならではの個性と言えるでしょう。また、長秋に依頼するような日本画を愛好する人たちの存在と広がりが、昭和8年頃には見られたことも、地域史や文化史の観点から注目されます。

### 4. 団扇・風呂敷・<sup>ふくさ</sup>襦紗

郷土資料館の企画展では、展示ケースの中央に、団扇を展示しました。展示では、長秋が描いた団扇絵の面しかご覧いただけませんが、裏面を見ると、



「牛込川鉄」という文字を確認でき、東京牛込の鶏料理店「川鉄」から依頼を受けたものということ推察できます。

昭和8年の日記からは、長秋に対する依頼が、画題だけでなく寸法や素材も多様だったことがわかります。例えば、先に引用した2月1日の記述に見える襦紗の下絵の他に、2月15日には、「深川長谷川(※木材問屋「長谷萬」か)ノ**風呂敷図案**ニカゝル」という記述があります。

筆者は、画家の作品というと、色紙や絹本に描かれるものを想起しがちでした。しかし、長秋の日記を読んでいて、昭和8年頃に生きていた人たちは、私が思っていたよりも、日本画との接点がいろいろなところにあったのだと気づきました。

### 5. 依頼を断ることもあった

会合への招待、作品の依頼、展覧会への出展など、多忙な日々を過ごした昭和8年頃の長秋は、依頼を断ることもあったようです。

#### 昭和8年3月9日

高橋清松来訪、本所被服シヨウ震災記念堂脇工観音堂建立ニ付、寄附画会ヲ催スニ付、尺三巾絹本画二百枚金一千五百円ニテ引受テ呉レトノ事、本年種々ヤラネバナラヌ事有トテ断ル

長秋の日記は、声が聞こえてきそうな表現で、楽しく読める資料です。また、日本画家や日本画愛好家に関する具体的な記述があり、地域史研究の観点からも興味深い資料です。とても判読が難しい字で書かれた日記ですが、今後も読み進め、船橋の地域史に関する新たな情報を得ようと考えています。

(小田 真裕)

## 古墳時代の住まい — 張り出し貯蔵穴をもつ竪穴住居跡 —

### はじめに

遺跡から発見されるものに、縄文時代から作られる、地面を掘り込んだ住まいの形、竪穴住居があります。縄文時代には円形のものが多く、古墳時代以降は掘り込む平面形が四角形になります。(図1)



図1 古墳時代の竪穴住居跡 夏見台遺跡(51)

古墳時代の竪穴住居は内部に貯蔵穴と呼ばれる地面を掘って作る床下収納のような設備を持つものが多くあります。さらにその貯蔵穴は住居の外側に飛び出して凸の字をひっくり返したような形になるものがあり、張り出し貯蔵穴と呼ばれています。(図2)

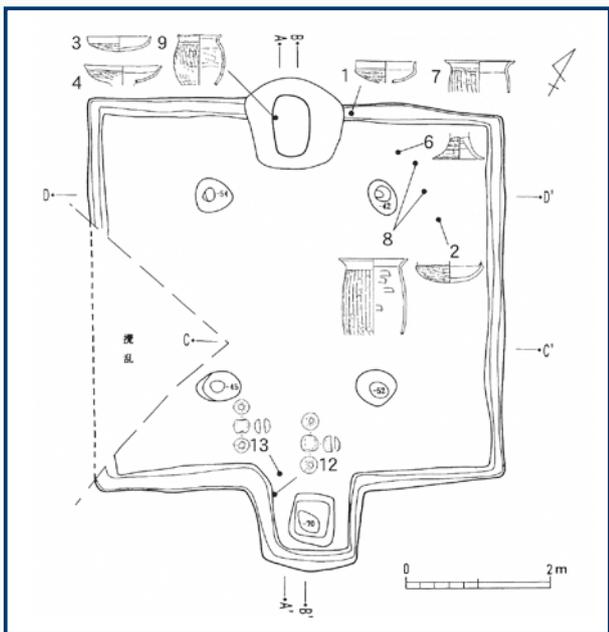


図2 飛ノ台貝塚第1次調査 第9号住居跡



図3 飛ノ台貝塚と夏見台遺跡群の位置

飛ノ台貝塚は縄文時代の遺跡として知られていますが、これまでに6軒の古墳時代の竪穴住居跡が調査され、そのうちの第1次調査第9号住居跡が張り出し貯蔵穴をもっています\*1。

張り出し貯蔵穴を持つ古墳時代後期の竪穴住居跡は大型のものに多い…というイメージはありましたが、船橋市内の詳細な情報がまとめられたことはなかったことから、古墳時代の竪穴住居跡が多数調査されている夏見台遺跡群の様相から張り出し貯蔵穴を持つ竪穴住居跡の特徴を考えていきます。

### 夏見台遺跡群の竪穴住居跡を調べる

夏見台遺跡群は飛ノ台貝塚から低地を隔てた東側の台地に広がる遺跡で、遺跡群全体でこれまでに120カ所以上の調査成果が積み重ねられてきました\*2。(図3) 発掘調査によって縄文時代から平安時代までの410軒の竪穴住居跡

が確認されており、時期ごとの軒数は縄文時代21軒、弥生時代61軒、古墳時代189軒、奈良・平安時代128軒、時期不明11軒となっています。最も竪穴住居跡の軒数が多い古墳時代のなかでも、古墳時代後期の竪穴住居跡は163軒あり、その中から竪穴住居跡の規模（奥行と幅）がわかるもの106軒を抜き出して散布図として表したものが図4です。

散布図のドットは左下から右上にほぼ直線状に並んでいることから、古墳時代後期の竪穴住居跡は、奥行と幅がほぼ同じ長さの正方形を取るものが多いことが読み取れます。散布図では竪穴住居跡を水色、張り出し貯蔵穴を持つものを赤色で示しています。竪穴住居跡の規模は、小さいものから大きいものまで様々な大きさがあり、軒数が集中するのは5～7mの間で、およそ半数の54軒が分布していることがわかります。

張り出し貯蔵穴を持つものは夏見台遺跡群では15軒あり、そのうちの規模のわかるもの12軒を散布図に示しています。張り出し貯蔵穴を持つ竪穴住居跡の規模は小さいものもありますが、分布が集中するのは7×7m以上となっています。7×7m以上の竪穴住居跡では13軒のうち7軒と半数程度が張り出し貯蔵穴を持っていることがわかり、張り出し貯蔵穴をもつ竪穴住居跡は大型のものに偏ることが確認できました。

### その使用方法は？

では、この大型の竪穴住居跡に付くことの多い、住居の外側に張り出した貯蔵穴は一体どのようなことに使われていたのでしょうか。市内の調査事例では実は張り出し貯蔵穴から土器などがまとまって出土することは少なく、どんなも

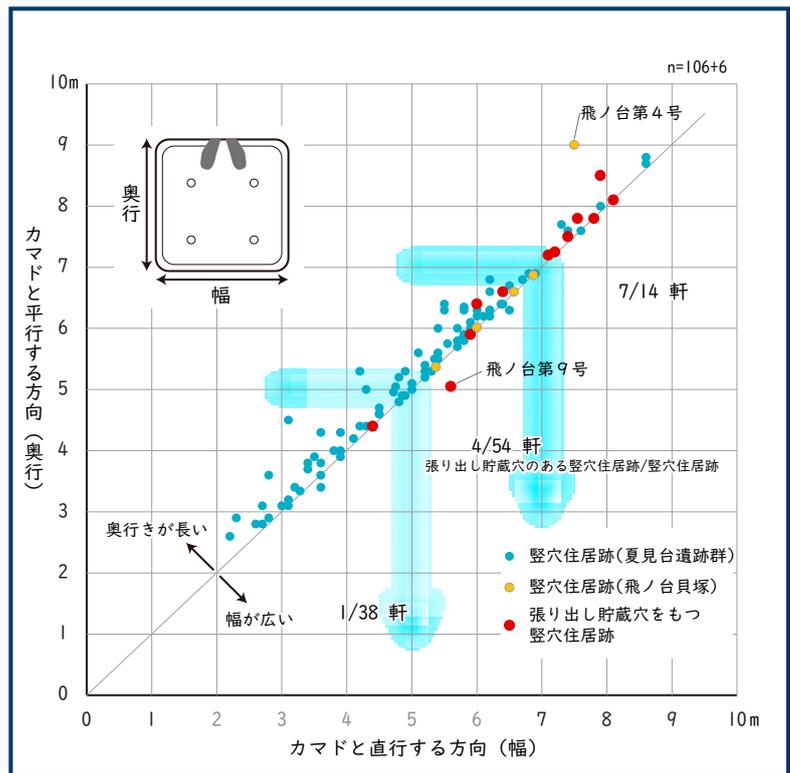


図4 夏見台遺跡群と飛ノ台貝塚古墳時代後期の竪穴住居跡規模

のを入れていたのかはよくわかりません。しかし、張り出し貯蔵穴は出入り口に関するピット(穴)との関係から、住居の出入り口の下にあったと推定されるものも多く、階段の下の収納のようなものだったかもしれません。

古墳時代～奈良・平安時代は船橋の遺跡が多い時期となっており、調査成果も積み重ねられていることから、今後も船橋の遺跡の特徴や近隣地域との比較など検討を深めていきます。

(狩野美那子)

※1 飛ノ台史跡公園博物館 2009年「飛ノ台貝塚を見直す6 飛ノ台貝塚1・2次調査における未発表資料について(下)」『飛ノ台史跡公園博物館紀要』第6号

※2 夏見台遺跡群は夏見の台地上に所在する八栄北遺跡・夏見台遺跡・夏見大塚遺跡・夏見台西遺跡・夏見城跡とし、令和3年3月までに発行された報告書に掲載されたものを集計した。調査次数は令和4年3月までのものを集計した。

# インフォメーション

※両館の行事の詳細は、毎月1日号の『広報ふなばし』でお知らせいたします。

※日程・内容に変更が生じる場合がございます。最新の情報は、ホームページをご確認いただくか、直接両館にお問い合わせください。

## 郷土資料館

※薬円台公園内のSLの運転台を、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後4時に公開しています。

### 【令和5年3月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
開催中～11月30日(水)	郷土資料館開館 50 周年記念企画展 「船橋を知るための 50 の扉」	郷土資料館 3 階 第 2 展示室
令和 4 年10月 8 日(土)～ 11月 6 日(日)	吉澤野球博物館資料展示室企画展 「この人、知ってる？ —野球人気を支えたパイププレーヤー—」展	船橋アリーナ内 吉澤野球博物館資料展示室 (船橋市習志野台 7-5-1)
令和 4 年11月27日(日)	文化講演会 「東京湾岸における人と鳥のかかわり」 共催：薬円台公民館	薬円台公民館 (船橋市薬円台 5-18-1)
令和 5 年 1 月21日(土)～ 3 月26日(日)	くらしの道具展 —道具が語るくらしの歴史—	郷土資料館 3 階 第 2 展示室



協力：  
船橋市華道連盟

## 飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、土曜日・日曜日に、ワークショップを実施しています。

### 【令和5年3月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
10月15日(土)～ 11月27日(日)	企画展「地中からの目覚め 柏北部東地区の遺跡展」	飛ノ台史跡公園博物館 1 階 ギャラリー 2 階 展示室
11月 2 日(水) 11月 9 日(水) 11月23日(水)	縄文大学	市民文化創造館 (きららホール) (船橋市本町 1-3-1 フェイスビル 6 階)
12月17日(土)～ 2 月 5 日(日)	企画展「縄文時代中期に関する展示 (予定)」	飛ノ台史跡公園博物館 1 階 ギャラリー
2 月19日(日)～ 3 月 5 日(日)	企画展「第 11 回飛ノ台史跡公園博物館・ 海神中校合同展」	飛ノ台史跡公園博物館 1 階 ギャラリー

「ふなばし生涯学習チャンネル」では、両館の職員手作りの学習動画を配信しています。➡



ご利用案内・交通案内

## 郷土資料館

**開館時間** 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)

**住 所** 船橋市薬円台4-25-19

**電 話** 047-465-9680

**F A X** 047-467-1399

**Eメール** kyodo@city.funabashi.lg.jp

### 交通案内

新京成線 習志野駅下車徒歩10分

JR 津田沼駅北口から  
船橋新京成バス・ちばレインボーバスで  
「郷土資料館」下車徒歩2分



## 飛ノ台史跡公園博物館

**開館時間** 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)

**入 館 料** 一般110円 (団体20名以上70円)  
児童生徒50円 (団体20名以上30円)  
市内在住中学生以下 無料

**住 所** 船橋市海神4-27-2

**電 話** 047-495-1325

**F A X** 047-435-7450

**Eメール** tobinodai@city.funabashi.lg.jp

### 交通案内

東武アーバンパークライン  
新船橋駅下車徒歩8分

京成本線 海神駅下車徒歩15分

東葉高速線 東海神駅下車徒歩12分

船橋新京成バス  
JR 船橋駅北口から山手ループ線  
「海神中学校前」下車徒歩1分



休館日カレンダー

10月							11月							12月							令和5年 1月							2月							3月								
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
						1			1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7					1	2	3	4					1	2	3	4
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11		
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18		
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25		
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30	31	29	30	31	26	27	28	26	27	28	26	27	28	29	30	31											
30	31																																										

☐ は郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館休館日 ※都合により、休館日が変更になる場合があります。

発行：令和4年（2022）9月30日 船橋市郷土資料館・船橋市飛ノ台史跡公園博物館  
表紙写真：ガスアイロンと炭火アイロン 神保君雄氏撮影